



いっしょにエコ日記

ティーチャーズガイド

／ クラスのみんなで身近な節水にチャレンジし
／ 節水の大切さをひろめよう！



..... 私たち花王は、子どもたちができる身近な節水を、

..... おうちや学校で楽しみながら身につけて、

..... 社会の一員として豊かに育ててほしいと願っています。

花王株式会社

いっしょにエコ日記は社会科の「水はどこから」の 単元と連動する<水>をテーマにしたプログラムです。

STEP1 プログラム (本書P.2～10)

授業での学びと家庭での節水実践活動を通して、
水を大切にする習慣を身につけます。



STEP1終了後、総合的な学習などで発展的な実践活動をされる場合、
STEP2をご活用ください。

STEP2 プログラム (本書P.11～31)

各校の状況に応じた取り組みで、節水の大切さをひろめます。



次年度に、次の4年生(現3年生)がプログラムを実施される場合におすすめします。

授業で節水の大切さを学んだうえで、家庭で節水を実践し、取り組みの成果をクラスで共有することで、自ら行動する力、継続する力を身につけます。

導入授業

	学 習 活 動	参 考 詳 細
導入 (10分)	●既習内容のふりかえり ●本時のめあての確認	進 行 詳 細 → 本書 P.3~ できることシート → 本書 P.5
展開① (10分)	●DVDの視聴〈ミッションビデオレター〉  【DVDのねらい】 ・企業の水を大切にする工夫を知る。 ・節水のためには小さなことでも毎日の生活で続けることが大切であることに気づく。 ・節水活動へ取り組む意欲をもつ。	
展開② (20分)	●クラス単位、グループ単位での思考活動 ●ワークブック「いっしょにエコ日記」の配付 ●「節水チャレンジ宣言」への記入 ●「いっしょにエコ日記」のつけ方の確認	
まとめ (5分)	●導入授業のまとめ	

(家庭で2週間程度実施)

節水チャレンジ

- おうちを回って節水ラベルをつける
- 節水したら色をぬり、日にちを記入



ふりかえり

- チャレンジしてみて気づいたこと・感想の発表
…実践したこと、自分やおうちの人の感想など
- 節水した結果を計算
…グループやクラス全体で何リットルになるか合計する

進 行 詳 細 → 本書 P.8

節水量を報告しよう!!

節水量報告書にクラスごとの合計節水量を記入
→花王「次世代育成事務局」へFAXにて送付

節水チャレンジ! 教材提供型プログラム

いっしょにエコ日記



ワークブックや「できることシート」に記載の節水量はおおよその目安です。
詳しくはウェブサイトをご確認ください。

花王 次世代育成

検 索

導入授業

1時限

水を大切に使うためにできることを考えよう

本授業のねらい

- 水を大切にするための企業の工夫を知り、自分にできることを考える
- 水を大切に使うために、毎日の暮らしの中でできる節水の工夫を考える

※授業開始時にはワークブックを配付しないでください(展開②-1終了後にワークブックを配付してください)。※時間は目安、自由にアレンジ可能です。

時間	流れ
導入 (10分)	水の大切さを確認する 1. 既習内容をふりかえる ・4年生「水」の単元(「水はどこから」、「くらしをささえる水」)における学習内容をふりかえる。 ポイント ・毎日のくらしやさまざまな仕事で、水がたくさん使われていることを確認する。 ・水は限りある大切な資源であることを確認する。 ・いろいろなところで、水を大切に使うための工夫や努力がされていることを伝える。 2. 本時のめあてを確認する ・水を大切に使うための工夫を考え、授業後、実際に節水に取り組むことを伝える。
	水を大切にするための企業の工夫を知る 1. 花王からのミッションビデオレター(DVD)を視聴させる ①「花王」から、「水」について勉強をしているみんなに、お願いしたいことがあるそうなので、DVDを見てみよう伝える。 ポイント ・花王はみんながおうちで使っているシャンプーやせっけんなどをつくっている会社と紹介する。 ・花王は水を使う製品をつくっている会社だからこそ、水を大切にする努力をしていると伝える。 ・みんなへのミッションが何かに注目して見るように伝える。 ②ミッションビデオレターを視聴させる(約4分)。      節水応援隊(花王ではたらく人とキャラクター)の紹介 花王の工場における、製品をつくる時の水を大切にしている努力 家庭で簡単に節水ができるように新しい洗剤を開発した 家庭での節水が簡単に実践できるための花王の研究への努力 ミッション(ワークブックを使用し、家庭での節水にチャレンジする)の提示 2. ミッションビデオレターの内容を確認する ポイント ・工場よりもおうちの方が水をたくさん使っており、わたしたち一人ひとりも節水に取り組む必要がある。 ・花王は水を使う製品をつくる会社だからこそ、みんながおうちで簡単に水を大切にできる方法を考えた。 <問いかけ例> ① おうちと工場では、どちらが水をたくさん使っているかな? ② 花王はおうちで簡単に節水できるように、どんな工夫をしていたかな? ③ みんなへのミッションは何だったかな?

時間	流れ
展開② (20分)	自分たちにできることを考える 1. さまざまな場面で水を使っていることを確認し、水を大切に使うためにはどんな工夫ができるかをグループで考えさせる ①おうちでは、どんな時に水を使っているかをクラス全体で考えさせる。 発問 ▶ おうちでは、どんな時に(水道)水を使っているのかな? ＜考えられる児童の答え＞ お風呂、トイレ、洗濯、そうじ、水やり、料理 ポイント ・お風呂、トイレ、洗濯、炊事など家庭のさまざまな場面で水を使っており、水は生活になくてはならないことを確認する。 ②水を大切に使うためにできる工夫を、グループで考えさせる。 発問 ▶ 水を大切に使うためには、どんな工夫ができるかな? ＜考えられる児童の答え＞ シャワーはこまめに止める、食器を洗う時は水を出しっぱなしにしない ポイント ・家庭では自分一人のできることと、家族といっしょにできることがあることを伝える。 ③グループで考えたことを、クラス全体で共有させる。 できることシート (→本書P.5) ポイント ・各グループの考えは、黒板に板書をし、自分たちのグループが考えつかなかった工夫は、メモをとるように伝える。 ・児童から新しい考えが出てこなかった場合は、本書P.5「できることシート」を参考に、具体的に何に気をつければ、どの程度の節水が可能かを確認する。
	2. ワークブック「いっしょにエコ日記」を配付する
	3. 自分たちが挑戦する節水を決め、「節水チャレンジ宣言」に記入させる ①「いっしょにエコ日記」P.1に、自分たちが考えた水を大切にできる工夫と同じ節水内容がのっているかを探させる。 ワークブック P.1 ②自分たちが考えた水を大切にできる工夫や、「いっしょにエコ日記」P.1の節水内容の中からチャレンジしてみようと思うことを4つ決定させる。 ワークブック P.1 ③決定した項目を「節水チャレンジ宣言」に記入させる。 ワークブック P.2
	4. 「いっしょにエコ日記」のつけ方を確認する ワークブック P.3～4
まとめ (5分)	導入授業 まとめ ●水を大切に使うために、企業の努力やみんなができることを学んできたが、一番大切なことは、毎日の生活で続けることである。 ●まずは、一人ひとりの取り組みがどれくらいの節水になるかチャレンジして確かめ、くらしの中でできる工夫を考えよう。

ワークブック
配付

自分で
できるくふう

流しっぱなし
だと
約6L

コップにくんで
歯みがきをすれば
約5L
節水

流しっぱなし
だと
約12L

水をためて
顔を洗えば
約6L
節水

流しっぱなし
だと
約10L

手洗い中に
水を止めれば
約8L
節水

流しっぱなし
だと
約36L

シャワーを
こまめに止めれば
約24L
節水

「すすぎ1回」で
洗たくをすれば
約15L
節水

「すすぎ2回」
だと
約60L

お風呂の残り湯を
洗たくに使用ば
約20L
節水

水道水だと
約60L

わかし直して
入浴すれば
約120L
節水

毎日、水を入
れると
約200L

流しっぱなし
だと
約60L

ためすぎを
すれば
約41L
節水

おうちのひと
でできるくふう

節水チャレンジ

10分
程度

「節水チャレンジ」に取り組もう

2週間の「節水チャレンジ」に取り組む直前に伝えていただくと効果的です。

本授業のねらい

- 世界の水環境を整えるための企業や団体の取り組みを知り、「節水チャレンジ」へのさらなる意欲につなげる。

■進行概要

時間

流れ

●「節水チャレンジ」に取り組むことを伝える

・翌日から「節水チャレンジ」をすることを伝える。

・チャレンジの後は、クラスの節水量の合計を計算し、花王に報告することを伝える。

●「節水チャレンジ」に取り組むことが、世界の水に恵まれない地域への支援につながることを伝える

・写真教材を提示しながら、世界には水に恵まれない地域があり、水環境を整えるためにさまざまな人たちが努力をしていることを伝える。

(写真教材は「花王 次世代育成」ウェブサイトよりダウンロードしてご活用ください)

写真教材

<写真教材概要>

		学習内容
1		世界には安全できれいな水に恵まれない地域があり、そのような地域では、家から遠く離れた場所まで水を汲みにいかなければならなかったり、衛生的な生活を送ることが難しかったりする。
2		水に困っている地域には、安全ではない水を飲んだり、料理に使ったりして、おなかを壊すなど、病気になってしまう子どもがいる。
3		水に恵まれない地域の水の環境を整えるために、その地域の人や世界中の国や会社、団体が努力をしている。
4		ベトナムの山間部や農村部も、安全できれいな水が不足している地域のうちの1つであり、「節水チャレンジ」をがんばることで、それらの地域のいくつかの学校に浄水器を設置することができる。

※日本の企業の活動や、ベトナムの山間部や農村部についての補足情報など、各写真教材についての詳細はウェブサイトでご確認ください。

●「節水チャレンジ」への意欲を高める

・「節水チャレンジ」は、水を大切に作る行動だけでなく、誰かの役に立つことも伝える。

ポイント

・「節水チャレンジ」での節水が、世界の水に恵まれない地域の一部への活動支援※1につながることをおさえる。

※1 子どもたちが安心した毎日を送れるように、花王は国連児童基金（ユニセフ）とパートナーシップを組み、ベトナム南部のAn Giang省と北部のDien Bien省において「学校衛生プロジェクト」に取り組んでいます。

We Support



世界の水事情への興味・関心を抱ききっかけとなり、発展学習につなげることができるよう、児童向けの調べ学習用ウェブサイトをご用意しています。



※実際の画面とは異なる場合があります。

ウェブサイトでは、児童の疑問に答える形で、会話調でわかりやすく解説し、水環境に関する課題を自分のこととして落とし込んで考えることができます。

掲載情報・学習テーマ例

- 安心・安全な水を手に入れることができない社会の問題
- 安心・安全な水を手に入れない地域の人々
- 安心・安全な水が手に入ったら、人々の生活はどのように変わるか
- 水と健康とのつながりについて
- 「水」について学べるリンク集

など



STEP1プログラム ヒント～節水チャレンジ～

● チャレンジ課題の実践事例

ワークブックP.5～7

チャレンジ課題に取り組んだ事例を紹介します。なかなか思いつかない児童へのヒントとしてご活用ください。

児童の記入例

雨水をためた水で、洗車をする。

20分間のホース洗車をバケツ5杯の洗車にして190リットルを節水

食器洗いの洗剤をつけすぎない。

少ない泡で水量をおさえることで5分間で30リットルの節水

トイレは大小レバーを使い分ける。

小レバーを使うことで一回6～10リットルの節水

● 子どもたちのチャレンジへの意欲を高める

「いっしょにエコ日記」ワークブックには、子どもたちが節水を意識し、意欲的に取り組める「節水ラベル」を用意しています。ぜひご活用ください。

節水しようと思うところに節水ラベルをつける!



自分が発見した節水の工夫もかいてチャレンジ!

※「節水ラベル」は、「花王 次世代育成」ウェブサイトからダウンロードできます。

「ふりかえり」は教科の授業時間や学級活動などで実施ください。

ふりかえり

実施時間は
取り組みに
応じて設定

「節水チャレンジ」をふりかえろう

本授業のねらい

- 節水にチャレンジした結果をクラス全体で共有し、節水の効果を数値化することで、小さな積み重ねによる大きな成果を実感する

時間	流れ
導入	● 本時のめあてを確認する
展開	「節水チャレンジ」をふりかえろう! ● チャレンジをしてみて気づいたこと・感想を発表させる ・何人かの児童に自分で考えて取り組んだことや、実践してみた自分の感想・おうちの人からのメッセージを発表させる。 ワークブック P.11 ● 一人ひとりがチャレンジできたことを共有させる ・個人で取り組んだ項目と、節水できた量を、何人かに発表させる。ワークブック P.5～10 ポイント ・「節水量」も大切だが、それぞれに一生懸命取り組めたことが最も大切であることを伝える。 ● クラス全体で節水した結果を発表させる ・グループに分かれ、グループのメンバーがどれだけ節水できたか合計し、グループで節水できた量を発表させる。全部のグループが発表したら、クラス全体で何リットルになるかを計算する。ワークブック P.12 ・クラス全体の節水量は、ペットボトル何本分になるのか、またそれは一人あたり何年分の本数に相当するのかを換算し、節水の成果を実感させる。ワークブック P.12 節水量換算シート (→本書P.9) 換算のステップ ①. クラスの合計節水量は500mlペットボトル何本分かを計算する。 $(\text{合計節水量}) \div 0.5 = (\text{ペットボトル本数})$ ②. ①のペットボトルの本数をクラスみんなで分けると一人何本分かを計算する。 $(\text{ペットボトル本数}) \div \text{クラスの数} = \text{一人あたりの本数}$ ③. ②の本数は、一日1本ずつ飲んだ場合、何年分になるかを計算する。 $\text{一人あたりの本数} \div 365(1\text{年の日数}) = \text{一人あたり()年分}$ ポイント ・節水量を身の回りの物に換算し、その量の多さをイメージさせることで、節水の成果を実感させる。 ・合計節水量を換算する時は、児童用ワークブックP.12に掲載の式をもとに計算したり、本書P.9「節水量換算シート」を黒板に提示をしたりして、節水の成果を実感させる。 ・500mlのペットボトルを用意し、児童に提示すると、節水量をイメージしやすくなり、節水の成果をより効果的にイメージさせることができる。 ・クラス全体の節水量を計算してみて、どのように思ったか感想を聞く。 ポイント ・一人ひとりの小さな行動が、大きな効果になることを伝え、実感させる。
まとめ	ふりかえり まとめ 一人ひとりの小さな行動が、大きな成果になることを確認し、毎日の生活の中でみんなが当たり前のこととして「続けられるようになる」ことが大切である。

● みんなの合計節水量 L は

ペットボトル (500ml) 本分

● フラスのみんなで分けると、
1人あたり 本



1日1本飲むとすると、1人あたり

年

分の節水になるよ



節水量を報告しよう!!

花王「次世代育成事務局」に、クラスごとの合計節水量を
FAXにてお送りください。

「節水量報告書」

「ふりかえり授業」終了後、2週間以内に
クラスごとの合計節水量を記入の上、FAXにてお送りください。
【最終期限：10月2日（金）】

学年	1組	2組	3組	4組	5組
1年					
2年					
3年					
4年					
5年					

花王「次世代育成事務局」
FAX : 050-3730-3586

※2～3週間ほどで、花王よりクラス別のレターを
お届けします。ぜひレターを添って、児童の節水活動継続
のモチベーションにつなげてください。

「節水チャレンジ」でのクラスごとの合計節水量をご報告いただきましたら、
ご報告後2～3週間ほどで、花王よりレターが学校に届きます。

最終期限 10月2日（金）

※学年単位で1枚ご提出ください。

節水量報告書は、
ウェブサイトからも
ダウンロードをして
いただけます。

節水チャレンジ! 教材提供型プログラム

いっしょにエコ日記



花王 次世代育成

検索



節水活動への継続意欲を高めるヒント

レターの活用

レターには、児童の節水活動によって、
浄水器の設置が予定されている地域の子どもたちの写真が掲載されています。

校長先生から表彰

レターを全校朝礼等で校長先生に読んでもらい、自分たちが
がんばったことを表彰してもらうことで、自分たちの節水活動が
誇りとなり、継続的な活動へのモチベーションにつながります。

お家の人にも報告

レターをクラスで読んだ後、コピーを配付することで、お家の人
ともいっしょに読むことができます。家庭において、節水活動の
継続を話し合うきっかけになり、家庭での節水活動の意欲向上
につながります。



STEP2プログラム 概要

家庭での節水の取り組みをふまえ、節水の大切さをより多くの人にひろめる活動を行うことで、学びを深化、発展させるとともに、児童の力の育成につなげます。

●時間数(目安):10時限程度

●学習成果物:節水ポスターなど

本書ではポスターを例に授業サンプルを掲載していますが、進行詳細・ワークシートともにほかの成果物制作時にもご活用いただけます。

ひろめる活動

	学習活動	参考詳細
調査 (1時限)	●学校ではふだんのくらい水を使っているか、校内で実験・調査を行う。	進行詳細→ 本書 P.13 ワークシートⅠ→ 本書 P.14
企画 (2時限)	●節水の大切さを伝える方法やメッセージについて考え、企画書を作成する。 ●2種類のポスターの比較ワークを通して、ポスターづくりのポイントについて理解する。	進行詳細→ 本書 P.15 ワークシートⅡ、Ⅲ→ 本書 P.16、P.19 ヒント①→ 本書 P.20 ～ポスター作成指導～
制作① (2時限)	●節水をひろめるためのポスターを制作する。	ヒント③→ 本書 P.26～ ～ひろめる活動成果物作成～
中間発表 (1時限)	●企画書とポスターをクラス内で発表し、他者から改善点などの指摘を受ける。	進行詳細→ 本書 P.22 ワークシートⅣ→ 本書 P.23
制作② (1時限)	●中間発表で指摘された事項をもとに、よりわかりやすいポスターへと修正を行う。	
呼びかけ準備 (1時限)	●より多くの人に節水に取り組んでもらうためにポスターを活用し、節水をアピールするための工夫を考える。	進行詳細→ 本書 P.24 ワークシートⅤ→ 本書 P.25
呼びかけ (1時限)	●「節水ひろめ隊」としてさまざまな人(他学年・地域の人など)に節水の大切さを呼びかける。	ヒント②→ 本書 P.24 ～呼びかけ実施～
ふりかえり (1時限)	●活動の成果をふりかえる。	



※児童の「考える力」・「伝える力」をさらに育成するために、3年生に引き継ぐ活動の実践を推奨しています。本書P.28～31をご参照ください。



「いっしょにエコ日記」STEP2 指導計画

STEP2は貴校の状況やこれまでの学習内容に合わせて自由にアレンジして実施いただけます。
あらかじめ活動時間数や授業展開を計画することで、充実した授業を実施することができます。

計画例① 節水新聞を校内で配って節水を呼びかけよう! (10時間)

学校でできる節水を考える(1時間)→新聞の内容を考える(2時間)→わかりやすい新聞のポイントを比較ワークでたしかめる(1時間)→節水新聞をつくる(2時間)→新聞を配る時の呼びかけ練習をする(2時間)→各学年に呼びかけ、新聞を配付する(1時間)→活動をふりかえる(1時間)

計画例② 自分たちで節水をひろめる方法を考えよう! (6時間)

学校でできる節水を考える(1時間)→節水を伝える方法をグループで決める(1時間)→節水を伝えるツールをつくる(2時間)→ツールを使って、呼びかけ練習をする(1時間)→各学年に呼びかける(1時間)

指導計画

題材名			
時間数			
学習段階・活動・ねらい 時数	学習段階	学習活動	ねらい
(例) 2時限	(例) 企画	(例)・節水の大切さを伝える相手・方法・メッセージを考える	(例)・伝える相手に合わせた方法や表現が大切であることに気づく

水のむだ使いを実感! 実験・調査で節水の重要性を再確認

調査

1時限

学校で使っている水の量をたしかめよう

本授業のねらい

- 節水をした場合としなかった場合の水の使用量の差を体感することで、節水行動の重要性の再確認を行い、これからの活動への動機づけにする

教材

- ワークシートI
- 【実験用】バケツ、ペットボトル、絵の具パレット

時間	授業内容	備考
導入 (5分)	●本時のめあてを確認する ・節水をした場合としなかった場合では、水の使用量にどれほどの違いがあるのか実際に調べてみることを伝える。	
展開 (37分)	●使う水の量を調査させる グループ活動 ・グループに分け、「蛇口の閉め方」、「手洗い」、「絵の具セット」で節水を意識して水を使った場合と、節水しなかった場合の水の使用量を調べさせる。 ●実験結果を確認する ・各グループで調査した内容を発表させ、クラス全体で共有させる。	・調査方法について全員で確認するために、「蛇口の閉め方：蛇口を閉めずに少し開けたままにした場合」については教員が演示で行ってもよい。  ワークシートI (→本書P.14)
まとめ (3分)	●授業まとめ - 節水した場合としなかった場合では、水の使用量に大きな差があるため、節水に取り組むことが重要である。	

学校で使っている水の量をたしかめよう

年 組 名前

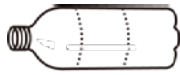
1

水の出し方がちがうと、使う水の量がどれくらいちがうか、かくにんしよう！

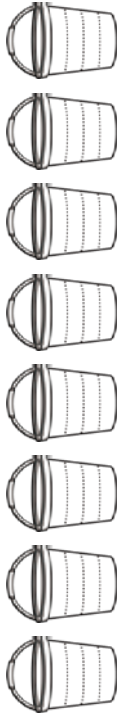
※1つのバケツに入る水の量は10ℓ、ペットボトルは2ℓです

1 じゃ口のせり

はん 1分間、じゃ口をしめずに少し開けたままにしていた場合



ℓ



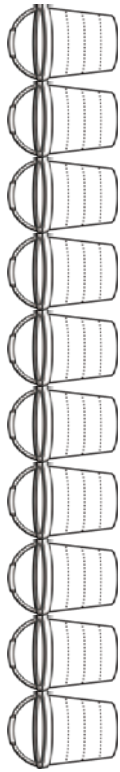
ℓ

2 手をあらう

はん 石けんで手をあらっている間、じゃ口をきちんとしめていた場合



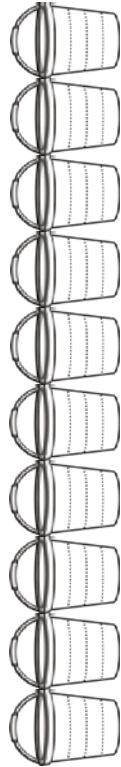
ℓ



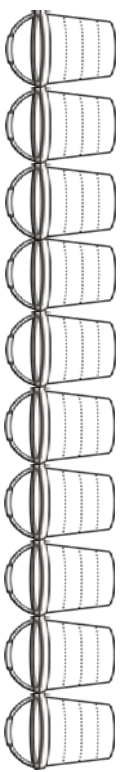
ℓ

3 絵の具をせん

はん バケツに水をためてから、筆やパレットをあらった場合



ℓ



ℓ

2

じっけん けっか

実験の結果を見て、気づいたことを書こう

伝えたいことを伝えるために、見る人の立場にたったポスター企画

企画

2時限

節水ポスターのアイデアを出し合おう

本授業のねらい

- 多くの人に節水してもらうためにはどのようなポスターを作ればよいか、具体的にアイデアを出し合う
- より良いポスターを制作するために、見る人の立場にたったポスターに必要な工夫について考える

教材

- ワークシートⅡ、ワークシートⅢ、ポスターサンプル2種（良い例・悪い例）、ひろめたい相手に伝える時のポイント

時間	授業内容	備考
導入 (5分)	● 本時のめあてを確認する ・「いっしょにエコ日記」の取り組みをふりかえり、一人では少しの節水でも多くの人が行うことで非常に効果的であることを確認し、節水を呼びかけるポスターを作ることを伝える。	・節水をひろめるための学習成果物アイデアについては、児童に選択させてもよい。 ※学習成果物例は本書P.26～27に掲載しています。
展開 (80分)	● ポスターを作るための企画書をまとめさせる ・グループに分かれ、ワークシートⅡに企画をまとめるように伝える。 ● より良いポスター作りに必要な工夫を考えさせる ・2種類のポスター（悪い例：P.17・良い例：P.18）を提示し、ポスター作りのポイントについて考えさせる。 ① ポスターを制作する時に大切だと思うことは何か発表させる。 ② 2種類のポスターを比較し、どちらが良いポスターだと思うか挙手をさせる。 ③ それぞれのポスターにはどんな特徴があるかを考えさせ、ワークシートⅡに記入させる。 ④ 良いポスターの特徴の中から、自分たちのグループが大切にしたいポイントを決めさせワークシートⅢに記入させる。 ポイント ・ポスターにはそれを見た人にメッセージを伝える役割があるため、以下の点がポイントであることをおさえる。 ※詳細は本書P.20参照 ・文章表現 短い言葉で分かりやすい表現 ・絵・図・表 大きく分かりやすく ・色 濃淡をつけて伝えたいことが目立つように ・本書P.21「ひろめたい相手に伝える時のポイント」を黒板などに貼付し、1点ずつおさえる。	ワークシートⅡ (→本書P.16) ・誰に伝えるかはクラスで統一してもよいし、グループによって変えてもよい。 ポスターサンプル2種 (→本書P.17～18) ワークシートⅢ (→本書P.19) ひろめたい相手に伝える時のポイント (→本書P.21)
まとめ (5分)	● 授業まとめ 伝えたいことを伝えるためのポスターを制作するためには、見る人の立場にたった表現や工夫を考えることが大切である。	

1

伝えることを決めよう

●だれに伝えるのか

●どんなことを取り組んでもらいたいのか

●取り組んでもらうために、どんなことを伝えればよいか

2

ひょうげん
2つの表現をくらべて気づいたことを書こう！

悪い例		良い例	
文章表現 ひょうげん			
	絵・図・表		
	色		
わかりやすい表現			

水を出しっぱなし
にしてはいけない！！

せつすい
がんだん



ムダ

ちきゅう
もよろこ
んでいる

水をムダにしない

ように気をつけよう！！

みんなの地球だから

みんなで守ろう！！

水

わたしたちは
をムダにしない!



みんなで守ろう!
みんなの地球



STEP2 プログラム ヒント① ～ポスター作成指導～

ポスターの指導ガイド

ポスターには見た人に自分たちの伝えたいメッセージを伝える役割があります。ポスター制作時の指導の参考にご活用ください。

本ポスターサンプルは節水への意欲喚起を目的としたものですが、行動喚起を目的とした場合、具体的な行動（節水方法や効果など）を取り入れた絵や文章が求められます。

1 メッセージを考える

ポスターを見た人の記憶に残る（ずっと節水を続けてもらうことができる）ように、伝えたいメッセージを印象に残る言葉で表現しましょう。

2 キーワードをつくる

一目見ただけで内容が伝わるように、短い言葉でわかりやすいキーワードをつくりましょう。

3 ポスターの表現を工夫する

ポスターを作成する時は、メッセージやキーワードが伝わるよう、文字や絵、色に工夫をして表現しましょう。

文字

一番伝えたいことを目立たせる

文字の大きさを変えたり、色を使い分けたりして、一番伝えたいことを目立たせましょう。

絵

図や絵にも工夫する

より多くの人（小さな子から大人まで）に伝えることのできる内容にするためには、絵や図でもメッセージが伝わるような工夫を入れましょう。



文字

キーワードは大きくはっきり

遠くから見た人が、「何だろう、もっとよく見てみたいな。」と思って近づいてきてくれるようなポスターにするためには、要素を絞って表現することが大切です。

色

色でも表現する

色に濃淡をつけて伝えたいことが目立つようにしたり、うれしいことや良いニュースは明るい色、悲しいことや悪いニュースは暗い色で伝えたり、色にも工夫をします。

4 遠くから確認する

一番伝えたいことが目立っているか、遠くから見て確認しましょう。

※企画書や下絵の段階で、このポイントをすべて満たす作品を作る必要はありません。

中間発表の際に、各グループに上記のポイントをもとにアドバイスや質問を行い、中間発表後からすべてのポイントを網羅した作品になるよう指導してください。



ひろめたい相手に 伝える時のポイント

- 伝えたいメッセージを考える
- 短い言葉でわかりやすい
キーワードをつくる
- キーワードは
大きくはっきりと目立たせる

改善点を明らかにし、より伝わるものにブラッシュアップ

中間発表

1時限

中間発表をしよう

本授業のねらい

- グループで制作したものをクラス内で発表し、改善点などを指摘し合うことでより良い成果物作りにつなげる
- 修正が必要な点を明確にすることで今後の活動（成果物制作）に見通しをもつ

教材

- ワークシートⅣ

※各グループの書いた下絵をクラス全体で共有するために、拡大投影機を使用する、もしくは写真撮影した下絵を拡大して見せるなどするとよい。

時間	授業内容	備考
導入 (5分)	●本時のめあてと中間発表の進め方を確認する ・今日の発表では、グループで考えたことを他者に向けて発表することを伝える。 ・発表の進め方を確認する。 ＜中間発表の進め方＞ ①各グループもち時間2分～3分間で発表＋質疑応答を行う。 ②発表が終わっても席に戻らず質問を受ける。 ③質問にはグループ全員で協力して答える。 ④答えられない場合は、「まだそのことは考えていません」「わからないのでこれから調べます」などの答えでよい。 ⑤質問された内容（特に答えられなかった質問）はメモを取っておく。 ⑥発表グループ以外の児童は、気づいたことを質問する。 ポイント 発表を通して自分のグループの良い点や改善が必要な点を知ることが目標であることをおさえる。	ワークシートⅣ（→本書P.23） ・各グループのもち時間はグループ数により異なる。 ・ほかのグループへの質問は自分のグループにも当てはまることが多いので、発表はよく聞いておくようにうながす。
展開 (35分)	●中間発表を行う ・グループごとに発表させる。	
まとめ (5分)	●授業まとめ ほかのグループからアドバイスを受けることは、自分たちのふりかえり、改善点の発見につながる。	

中間発表のねらい

中間発表のねらいは、児童に新たな視点を獲得させ、思考を深化させることにあります。そこで、批判をするのではなく、制作物に対して、曖昧な点や理解が浅い部分に気づききっかけを与え、再考させることが大切です。

例えば、評価者の質問に対して論理的な説明を求めることで、自分たちの制作物の不十分な点を理解させることができます。グループ単位で進めてきた内容に客観的な視点を取り入れることで、課題や修正点を抽出し、さらなる情報収集や調査の必要性に気づかせます。

また、ほかのグループのプレゼンテーションを見ることで、評価する側の視点を知ること制作内容のレベルアップにつながります。評価者は児童だけでなく、教員、プロジェクト関係者など多様な視点があるとよいでしょう。

1 中間発表準備

●中間発表とは？

よりよいものを作るためにほかの人からアドバイスをもらうための発表です。

特に重要なのは、しつ問タイム！

発表が終わったら、しんざ員やほかのグループからアドバイスやしつ問をうけます。自分たちでは気づかなかった「もっとこうしたほうがいい」という意見や「どうしてそのように考えたの?」という質問を聞いて、もう一度グループで作ったものを見直し、よりよいものを作りましょう。

*ほかのグループに向けて自分がアドバイスやしつ問をする時には、その作品をもっとよくするためのアドバイスをしつ問を考えてあげましょう。

●発表のながれ

発表すること		たんとう者
①	節水を伝えたい相手と伝えたいメッセージ	
②	このメッセージとデザインにした理由	
③	多くの人に節水に取り組んでもらうためにくふうしたこと (ほかに発表したいことを書く)	
④		
⑤	発表の後、しつ問をうけつける	

●しつ問されたことやアドバイスをメモしておこう

2 発表メモ

①節水を伝えたい相手と伝えたいメッセージ

伝えたい相手	伝えたいメッセージ

②このメッセージとデザインにした理由

③多くの人に節水に取り組んでもらうためにくふうしたこと

④ほかに発表したいこと

呼びかけ準備

1時限

節水の大切さをひろめる準備をしよう

本授業のねらい

- より多くの人に節水の大切さをひろめるために、成果物を使ってできることを考える
- 発表原稿をつくるために情報を整理する活動を通して、これまでの活動をふりかえる
- 他者の立場に立ってわかりやすく表現するための方法を考える

授業の進め方

成果物が完成したら、成果物の発表を通して節水をより多くの人にひろめる活動を行いましょう。発表準備では、本書P.22の中間発表と同様に、発表を相互評価することで、発表の内容や発表の仕方のレベルアップにつながります。また、発表チェックシートを用いることで、改善が必要な点が明確になるため、児童の意欲喚起につなげることも可能です。（チェックシートは発表後に回収して各グループに渡し、改善が必要な点を分析させましょう。）

発表チェックシート例

あてはまるところに○印をつけて、「よかった点・もっと工夫したら良い点」をアドバイスしましょう。

グループ名		◎	○	△	×
	①一番伝えたいことを伝えることができていましたか。				
	②伝えたいことを伝えるための工夫がありましたか。				
	③聞き取りやすく、大きくはっきりとした声で発表ができていましたか。				
	④聞いている人の方を見て発表ができていましたか。				
〈よかったところ・もっとよくするためのアドバイス〉					

呼びかけ

1時限

より多くの人に節水の大切さをひろめよう

本授業のねらい

- より多くの人に節水の大切さを呼びかけ、節水活動への意欲を喚起する



STEP2プログラム ヒント②～呼びかけ実施～

成果発表会の実践事例

全校朝礼や給食時間に全学年の児童に向けて呼びかける



実施時間

・全校朝礼の時間＋1時限（45分） ・給食時間

実践校の取り組み

・ポスターを使って各クラスの代表グループが全校朝礼の時間に発表。すべての学年に興味をもって見てもらうために、1リットルがどのくらいの水の量なのか、牛乳パックを用いて紹介したり、クイズを用いたりするなど工夫を取り入れました。

〈実践事例〉節水チャレンジの様子 活動レポート 箕面市立豊川北小学校



節水の大切さをひろめる準備をしよう

年 組 名前

1 よびかけ用のげんこうをつくろう

たんとう者

発表げんこう

〈グループ名〉

①

① 今から _____ 年 _____ 組 _____ の
発表をはじめます。よろしくお願いします。

〈だれに〉

②

② わたしたちが、_____ に、
〈伝えたいメッセージ〉
伝えたいことは _____ です。

〈このメッセージを考えた理由〉

③

③ なぜかという、 _____

だからです。

〈つくったもの〉

④

④ この _____ を見てください。
〈くふうしたこと〉
特に、くふうしたことは、 _____
 _____ です。

〈一言アピール〉

⑤

⑤ さいごに、みんなに伝えたいことは _____

ということです。

〈グループ名〉

⑥

⑥ これで _____ 年 _____ 組 _____ の発表を
終わります。



STEP2プログラム ヒント③～ひろめる活動成果物作成～

学習成果物の実践事例

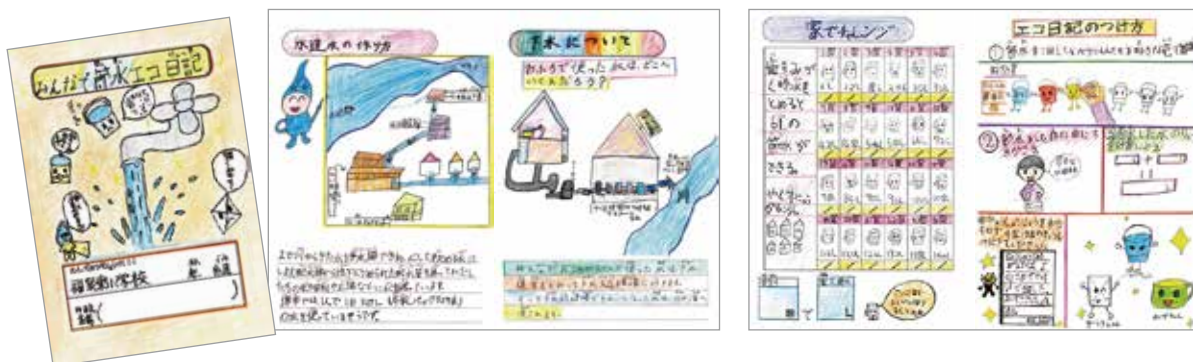
本書では、ポスターを例に授業サンプルを掲載していますが、「ひろめる活動」実践校ではポスター以外にさまざまな成果物が制作されました。

配布可能なレター型ポスター



制作したポスターを縮小し、裏面は二つ折りすると手紙になる柄をコピーしてレター型にアレンジ。ポスターを掲示するだけではなく、キャラバン活動で直接手渡せる・もって帰ってもらえる成果物にもなり、児童のさらなる意欲向上につながります。

身近な情報盛りだくさん! オリジナルエコ日記



1グループ1ページずつ担当し、全員で1冊のオリジナルエコ日記を作成。オリジナル冊子は、「水」について学んだことや、みんながチャレンジできる節水についてまとめることで、節水を身近に感じ実践をうながすことができます。

実践校ではさらに、キャラバン活動で他学年にオリジナルエコ日記を配付しました。全校で節水ウィークを実施し、最後まで節水チャレンジできた児童に、4年生の児童より達成証明のシールを貼って返すしくみをつくったことで、活動の成果を児童自身が実感することができました。

聞く人の立場を意識したプレゼンテーション

全校児童の前でプレゼンテーションを実施。プレゼンテーション準備として、練習発表をビデオで撮影して改善点を洗い出す分析ワークを行うことで、良くできている点や改善が必要な点について自分自身で気づくことが可能です。

制作活動や中間発表、発表練習を時間をかけて行うことで、伝える意欲の向上だけでなく、聞く人の立場を意識したプレゼンテーション作りにつながります。

環境のためにできる歌

既存の楽曲にこれまで学んだことをもとに歌詞を考え、歌を作成。

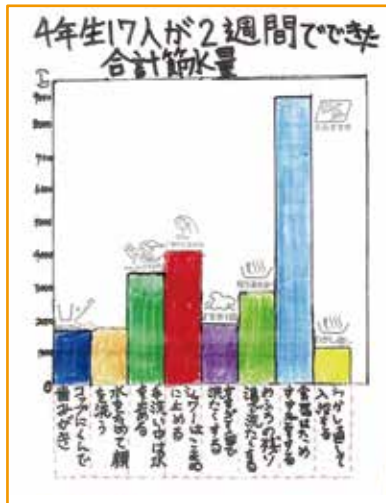
繰り返し歌の練習をすることで、多くの人に伝えたいという思いや、節水をしなければならないという意識を高めることができます。

全学年に楽しくひろめる演劇



節水方法や節水の重要性を伝えるための演劇を他学年向けに制作。
すべての学年の児童に節水を身近に感じその重要性を理解してもらえるように、表現方法や言葉づかい、設定などにも気を配ることを通して、見る人の立場にたった表現を工夫する意識を育みます。

国語との教科連動も可能! 集めた情報をわかりやすく伝える新聞



クラスごとやグループごとに1枚の新聞を制作。自分たちが行った節水チャレンジの結果や様子を紹介したり、誰でもできる節水方法を写真といっしょに紹介したり、低学年向けにふりがなをふるなど、伝えたい内容や対象に応じたしなやかさを工夫することが可能です。



新聞作りの「企画」時にご活用いただける新聞サンプル(良い例・悪い例)を「花王 次世代育成」ウェブサイトからダウンロードいただけます。

花王 次世代育成

檢 索



次年度に、次の4年生(現3年生)がプログラムを実施される場合におすすめします。

3年生へ節水活動を引き継ぐ 概要

児童の「考える力」・「伝える力」をさらに育成できます。

また、本活動は高学年進級に向けての責任感の醸成にも効果的です。

● 時間数(目安): 2～5時間

● 学習成果物: 引き継ぎ書など ※成果物については、実施時間や引き継ぎ式の内容に合わせて自由に設定いただけます。

学習成果物の制作を通して自分の活動をふりかえることは、3年生へ引き継ぐことへの意欲向上につながるだけでなく、自己の成長に気づくことができます。また、成果物を受け取ることで、3年生が4年生になった時の節水に取り組む動機づけとなります。

	学習活動	参考詳細
ひろめる活動をうけて 校内 節水チャレンジ (1～2週間程度)	●「節水ひろめ隊」として、節水を呼びかけた学年も「節水」を自分事として捉えるように、節水活動を行う。 ※節水ワークシートの活用で節水量が視覚化でき、他学年での活動の効果が高まります。	節水ワークシート  ※ウェブサイトよりダウンロードしてご使用いただけます。
引き継ぐ活動 引き継ぎ企画 (1～3時限)	●これまでの活動をふりかえり、3年生に伝える内容を考える。 ●引き継ぎの方法を考え、3年生に渡す引き継ぎのための学習成果物を準備する。 ●3年生にとって、わかりやすい発表の原稿を作成する。 ●相手の顔を見て、大きな声で発表ができるように練習をする。	ワークシートⅥ → 本書 P.29 ※引き継ぎ式のための成果物については、ウェブサイトの内容も参考いただけます。
4年生・3年生合同 引き継ぎ式 (15～30分)	●3年生に節水の大切さを伝え、「節水ひろめ隊」の活動を引き継ぐ。	進行詳細 → 本書 P.30
ふりかえり (15分程度)	●活動を通して自分たちが何を学び、どのように成長をしたかを確認する。	ふりかえり チェックシート → 本書 P.31

実践した先生の声

4年生制作のCMによる呼びかけで、他学年も節水ワークシートを用いて節水チャレンジに取り組みました。視覚的に節水量を確認できるよう、シールを使用することで他学年も意欲的に取り組み、また集計する4年生も呼びかけの成果や他学年の努力を実感することができました。

引き継ぎ書の作成にあたり、活動をふりかえりながら、3年生へのメッセージを考えることや、どう伝えればうまく伝わるかを考える姿にこれまでの取り組みの成果が見られました。また、引き継ぎ式は児童自らが企画し、司会進行を務めましたが、準備を通して、責任感が高まっていったようでした。

引き継がれる3年生も、節水チャレンジをしていたからこそ、引き継ぎ書のメッセージを自分事として受け止めており、さらに引き継ぎ書を4年生から3年生一人ひとりへと渡したことで、すべての児童が節水活動の重要性を感じ、引き継ぎの意義を感じられる式となりました。



2016年度 中野区立緑野小学校
山岡先生 田尻先生



〈グループ名〉

年度 「節水ひろめ隊」のみなさんへ

● 「節水ひろめ隊」として伝えたかったこと

〈伝えた人〉

〈一番伝えたかったこと〉

節水をひろめるためにつくったもの（成果物）

● _____をつくる時に工夫したこと

● 節水をひろめる活動をする3年生へのメッセージ

節水をひろめるために
つくったものをはりつけよう

※担任の先生へ

成果物が大きく貼り付けが難しい場合は、
右面のみを切り離して成果物に貼りつける等してください。

引き継ぎ企画

1～3時限

引き継ぐ準備をしよう

本授業のねらい

- ひろめる活動のふりかえりを通して、学校として節水活動を続ける大切さを確認する
- 引き継ぎの方法や内容を考えることを通して、3年生に引き継ぐ責任感を育成する
- 相手が興味をもって聞けるような話し方や話す内容などを考え、発表の練習をすることを通して、考え力や伝える力を身につける

引き継ぎ式

15～30分

3年生に引き継ごう

本授業のねらい

- 3年生に節水や節水をひろめる活動について発表し、節水活動への意欲を喚起する

教材

- 学習成果物



3年生に引き継ぐ活動 ヒント①～引き継ぎ式～

引き継ぎ式の実践事例

クイズをまじえた報告で節水活動を引き継ぐ



実施時間

- ・30分
- ※15分から30分を目安としているため、朝の会やお昼の時間などでの実施が可能です。

実践校の取り組み

- ・どの時期にどのような活動をしたのかをスライドで具体的に報告した後、自分たちで考案したクイズを通して、3年生の節水への意識づけをはかりました。節水活動へのアドバイスも伝え、節水ひろめ隊としての心得もあわせて引き継ぎました。

〈実践事例〉2016年度 引き継ぎ式の様子 和泉市立鶴山台南小学校

進行詳細(例)

時間	授業内容	備考
導入 (5分)	●引き継ぎ式のねらいと概要を説明する ・3年生に、4年生になったら節水活動を引き継ぐことを伝える。 ・節水活動を通して気づいたことや感じたことをふりかえる場であることを伝える。	
展開 (20分)	●活動の報告をする【10分】 ①1学期からの活動内容を報告する(5分)。 ②節水に関するクイズをする(5分)。 ※校内節水チャレンジにおける学校全体の節水量の報告も含む。 ●引き継ぎをする【10分】 ①成果物についての発表をする(6分)。 ※持ち時間2分程度で、2グループより引き継ぎ書の説明をする。 ②成果物を3年生へ渡す(4分)。	・本事例は学習成果物として「節水引き継ぎ書」と「節水アイディア集」を制作 ワークシートVI (→本書P.29) ・引き継ぎのための学習成果物事例 (→本書P.31)
まとめ (5分)	●授業のまとめ ・4年生担任より、4年生と3年生それぞれに向けたメッセージをおくる。	

その他の実践事例

劇で伝えた節水への取り組み (20分)



全校朝礼終了後に実施

クイズをまじえた劇で節水活動を伝えるなど、クラスごとに引き継ぐ方法を工夫。自分たちでデザインした節水シールを、3年生と一っしょに校内へ貼付もしました。

〈実践事例〉2016年度 引き継ぎの様子 堺市立上野芝小学校

節水のためのCM作成 (45分)



公開授業日に実施

引き継ぎ式を自分たちで企画し、司会進行も担当。代表者から活動の報告後、グループごとにつくった節水CMを鑑賞しました。最後に、引き継ぎ書を3年生一人ひとりに渡しました。

〈実践事例〉2016年度 引き継ぎの様子 中野区立緑野小学校

ふりかえり

15分程度

これまでの活動をふりかえろう

本授業のねらい

- これまでの活動を通して、自分の学んだことをふりかえる
- 自分たちが高学年になっても節水活動を継続していくことの大切さや、次の4年生（現3年生）の節水活動を見守ることの重要性について確認する

教材

- ふりかえりチェックシート ※ふりかえり項目は、活動内容に合わせてアレンジしてお使いください。

引き継ぎ式 ふりかえりチェックシート例

引き継ぎ式をふりかえり、あてはまるところに○印をつけましょう。

ふりかえり項目	◎	○	△
①グループで協力はできましたか。			
②一番伝えたいことを伝えることができましたか。			
③大きな声で発表ができましたか。			
④聞いてくれている人の方を見て発表ができましたか。			
⑤友達の発表をしっかり聞くことができましたか。			
⑥これからも節水活動を続けていこうと思いますか。			
節水活動への取り組みをふりかえりましょう。			



3年生に引き継ぐ活動 ヒント②～引き継ぎ成果物作成～

引き継ぎのための学習成果物事例

3年生への引き継ぎのために学習成果物を制作する

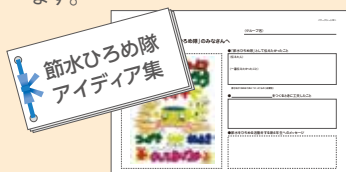
1 個人制作節水引き継ぎ書

節水ひろめ隊としての心得とアドバイスを伝えます。



2 節水アイデア集

引き継ぎ書を束ねて、節水のアドバイス集やアイデア集としてまとめます。



3 引き継ぎツール

節水の工夫やアドバイスを盛り込んだ隊員証やカレンダーなど、節水活動への意欲を高めるツール例です。



節水ひろめ隊員証



カレンダー

節水チャレンジ! 教材提供型プログラム

いっしょにエコ日記



紹介している学習成果物は、「花王 次世代育成」ウェブサイトからダウンロードいただけます。

花王 次世代育成

検索



